

1970

昭和45年

1979

昭和54年

世の中の主な出来事

- 70年 大阪万国博覧会
- 71年 円、変動相場制移行
- 72年 沖縄返還・日中国交回復
- 73年 第2次石油危機
- 75年 沖縄海洋博
- 76年 ロッキード事件で田中元首相逮捕
- 78年 日中平和友好条約調印

1970年

3月 新日本製鐵発足、永野重雄会長、稲山嘉寛社長就任  
八幡製鐵・富士製鐵両社合資の合併が実現し新日本製鐵株式会社発足。資本金2293億円、従業員数8万2千人、粗鋼生産能力4160万トン。粗鋼生産は自由世界第一位、わが国企業のトップとして新たなスタートを切った。



7月 君津でUO鋼管製造設備が稼働

10月 日鐵溶接工業(株)発足  
富士溶接棒(株)と八幡溶接棒(株)の合併による。

11月 永野重雄会長、勲等瑞宝章受章

11月 「研究開発本部」設置

11月 「環境管理室」設置

1971年

4月 君津で線材工場が稼働

7月 広畑野球部、都市対抗野球大会で優勝

10月 豪州クイーンズランド州ボーエン炭田からの長期契約による



1972年

10月 稲山嘉寛社長がISI会長に就任

2月 ウジミナス拡張計画に技術援助の拡充を表明

技術協力の相手先は逐年増加し、韓国浦項綜合製鉄70年7月技術協力契約調印、イタリアンデル71年11月情報システムに関する契約締結およびブラジルウジミナスをはじめとする各社に製鉄エンジニアリングコンサルトを展開した。



4月

大分第一高炉火入れ、世界初の全連続方式採用。これを契機に連続鑄造化が進む  
71年11月の熱延工場稼働に続き、第1高炉の火入れが行われ、鉄鋼製鋼体制が確立した。76年10月第一高炉火入れ、77年1月厚板工場稼働。以後連続鑄造の動きは急速

1973年



4月 君津で大形工場が稼働

4月 超深絞り用鋼板(SSPD) (社長表彰)

4月 「エンジニアリング事業本部」X(開発、社長表彰)

6月 「エンジニアリング事業本部」設備技術センター設置

8月 新日本製鐵労働組合連合会結成

8月 ミコンヘンオリンピックに柔道の篠巻政利、陸上の君原健二・杉岡邦由、バレーボールの中村祐造各選手が参加。このうち中村キョウテン率いる男子バレーボールが金メダル獲得

10月 君津で第2連続焼純処理設備(C.A.P.L.)が稼働

世界初の連続焼純化ラインとなった。

1974年

3月 「新しい方向性珪素鋼板オリエントロアハイパーの開発」で大河内記念賞受賞

5月 新経営体制発足  
稲山嘉寛会長、平井富二郎社長就任。

6月 全国発明表彰、高磁束密度

6月

方向性珪素鋼板の製造法」で恩賜発明賞受賞  
鉄海が阿賀沖海底石油探掘用プラットフォーム建設工事を受注  
日本初の本格的海洋構造物建設工事となった。



7月 日鐵建材(株)発足  
当社川崎製鋼所と日本エコー(株)の合併による。80年より日鐵建材工業(株)。

10月 第一次石油危機勃発、第二次省エネルギー計画策定

第四次中東戦争を契機に第一次石油危機が勃発し、日本経済に大きな打撃を与えた。翌年3月には卸売物価、消費者物価とも前年同時期比約30%の大幅上昇。74年春間による買上げは平均32.9%。当社でも翌74年頭、エネルギー消費10%削減を目指す第二次省エネルギー計画が示された。  
堺パレイポール部、全日本総合選手権大会で優勝

1974年

3月 全国粗鋼生産量、1億2000万トンの新記録を達成(73年度)

3月 「H形鋼の連続式製造方法の開発」で大河内記念生産特賞受賞

3月 堺パレイポール部、日本リーグ

1976年

- 3月 室蘭で棒鋼工場が稼働
- 4月 稲山嘉寛会長、勲等瑞宝章受章
- 6月 四事業部からなる新体制の「エンジニアリング事業本部」設置
- 7月 エンジニアリング事業本部 72年6月発足が、技術協力、鉄構海洋標準建築、工作の四事業部による複合事業体の新体制となった。海外プロジェクトや社内高炉設備の改修が相次いだ76年度には2519億円の売上高を記録。全社売上高の10%を占めるに至った。
- 7月 都市対抗野球大会に当社から初の5チーム出場
- 10月 八幡、室蘭、広畑、名古屋、堺の5チームが出場し、八幡準優勝、堺第三位で大いに盛り上がった。
- 10月 日鐵ドラム(株)発足
- 10月 ㈱日本ドラム罐製作所と製鐵ドラム(株)の合併による。
- 2月 八幡で第二トクス乾式消火設備(CDO)が稼働
- 3月 堺パレール部、日本リーグで3年連続優勝
- 4月 耐ラメラータ鋼製造技術を確立(社長表彰)
- 6月 新経営体制発足
- 7月 田坂輝敬社長就任
- 7月 モントリオールオリンピックに柔道の南喜陽、陸上の水上則安・神野正英、パレール部の柳本晶・小田勝美・田中幹保各選手が参加
- 9月 名古屋で当社初の炉頂圧発電設備が稼働
- 9月 第二次石油危機直後の74年頭に、

1975年

- 3月 堺パレール部、日本リーグで2年連続優勝
- 3月 「薄鋼板連続焼鈍処理設備」による深絞り用冷延鋼板製造技術の開発で大河内記念賞受賞
- 4月 転炉製鋼法におけるタイナミック操業技術を確立(社長表彰 76年大河内記念生産賞)
- 4月 DISSブリキを開発(社長表彰)
- 7月 釜石で線材強化工事が完了
- 11月 高速度ステンポール化を実現した。
- 11月 堺パレール部、全日本総合選手権大会で優勝
- 12月 四割増資、新資本金3220億円に



- 10月 社長方針としてエネルギー消費10%削減を目指す第一次省エネルギー計画が示された。78年度上期までに操業努力で5.7%、高炉炉頂圧回収タービン、熱風炉廃熱回収設備、高炉脱風送風設備、転炉ガス回収増加対策、直送圧延対策、加熱炉低温抽出対策、燃焼管理対策、回転機の省電力などの設備対策で4.7%の計10.4%削減を達成した。
- 10月 スラッグの有効利用
- 10月 80年度のスラッグ水砕化率50%(75年当時11%)を目標に、大分第二高炉新設の際、発生スラッグを全量

1978年

- 11月 日鐵商事(株)発足
- 10月 斎藤英四郎社長がISSI会長に就任
- 10月 八幡で中径シームレス鋼管工場が稼働
- 10月 室蘭で新第一製鋼工場が稼働
- 11月 斎藤英四郎社長がISSI会長に就任
- 11月 日鐵商事(株)発足
- 5月 水砕化する計画を決定。これを契機に、セメントクリンカー原料としての水砕スラッグ販売が急増した。
- 10月 ISSI大阪大会開催
- 11月 堺パレール部、全日本総合選手権大会で2年連続優勝
- 4月 永野重雄名誉会長、勲等旭日大綬章受章
- 5月 上海宝山製鉄所建設に関する議定書正式調印



1977年

- 1月 斎藤英四郎社長就任
- 3月 堺パレール部、日本リーグで4年連続優勝
- 6月 「開発企画本部」設置
- 8月 釜石市から廃棄物溶融処理設備を初受注
- 10月 中国の新経済発展計画の中核事業で、日中長期貿易取り決めの第一号プロジェクトである上海宝山製鉄所4000m<sup>2</sup>級高炉2基、年産600万トン建設に総力をあげて協力することとし、5月に「中国協力本部」を設置した。10月には鄧小平首相が岩津を視察した。
- 6月 全国発明表彰、プルーフン護岸の製造方法で科学技術庁長官賞受賞
- 10月 第一次合理化計画策定
- 10月 企業体質強化に向け、中期生産構造」を策定。粗鋼4700万トン体制を80年までに3600万トン体制に圧縮するため、八幡大形工場、釜石大形工場、広畑厚板工場などの休止を決定した。
- 10月 大阪製鐵(株)発足
- 10月 大鐵工業(株)と大和鋼管(株)の合併による。
- 11月 堺パレール部、全日本総合選手権大会で優勝



1979年

- 1月 釜石スラッグピット部、日本選手権で2年ぶり2度目の優勝
- 3月 八幡で第三製鋼工場が稼働
- 3月 堺パレール部、日本リーグで優勝
- 4月 第一次省エネルギー計画発表
- 4月 83年度までに対78年度上期7%以上のエネルギー削減を図る目標を提示。連続造比率向上、高炉炉頂圧発電の普及、トクス乾式消火設備等を含む廃熱回収、直送圧延比率の拡大を推進した。
- 4月 平井富三郎相談役、勲等瑞宝章受章
- 4月 「亜鉛多量鋼材のタンニン酸による無公害化成処理技術の開発」で市村産業賞功績賞受賞
- 5月 「中国協力本部」設置
- 8月 広畑厚板工場休止
- 10月 八幡第三大形工場休止
- 10月 自動車用良加工性高強度鋼板を開発、本格的に販売
- 11月 堺パレール部、全日本総合選手権大会で優勝



- 11月 堺パレール部、全日本総合選手権大会で優勝